SDGインパクト

SDGs達成に向けた民間資金の流れの拡大を目指して

2021年12月

SDGインパクトについて

SDGインパクトとは？⇨2030年までのSDGs達成に向けて「民間資金」の流れを拡大するためにUNDPが立ち上げた取り組み

- SDGs達成には、ODA、公的機関、慈善団体のみならず民間資金が必要
- 課題解決に向け、システム全体の資金が多様な方法で協働する必要

- 民間セクターは積極的に貢献する機会を模索している
- その善意を行動につなげ、人と地球に具体的な正のインパクトをもたらすための支援が必要

SDG Impact

UNDP

SDGインパクトの目的
企業や投資家が持続可能性を経営判断の中核に据えることを支援し、人と地球に最良のインパクトをもたらす領域へ資金の流れを促進

SDGインパクト基準	SDG投資情報マップ
投資資金を必要とする領域へ投入するための、適切な意思決定手段の提供	SDGs達成に向けた資金の流れを促進するデータと分析結果の提示
• SDGインパクト基準 • SDGインパクト認証ラベル	• SDG投資情報マップ • SDG投資情報プラットフォーム

ファシリテーション：投資家との対話、政策対話
能力開発：研修や教育の提供

SDG Impact

UNDP

持続可能な事業運営とSDGsへの積極的貢献が
ビジネスと投資領域にもたらすもの

持続可能な世界の達成はまだ道半ば

SDGsの達成はまだ道半ば。

2019年の進捗率のままだと、全てのSDGs達成には2082年までかかる見通し。これはコロナ禍前の想定で、**コロナ禍により少なくともさらに10年達成が遅れる見込み。**

世界の資金は、最も必要としている人々や国々に十分に届いていない。

格差、気候変動、その他の**SDGs課題**は、ますます**経済成長の可能性の阻害要因に**。

ビジネスや投資の意思決定・活動の多くが**社会と環境へ負のインパクト**を与えている。

これらは**回避または大幅に削減**可能。全てのビジネスや投資の意思決定をより持続可能なものにすべく注力する必要がある。

「サステナブル」とされる事業や投資のうち、どれだけが実際に持続可能な開発を促進しているのか、どれだけが実際は **「SDGウォッシング」(インパクトの誇張)** なのか不明。

SDG Impact

UNDP

民間セクターの参画
持続可能な事業運営とSDGsへの積極的貢献がビジネスにもたらすもの

共通の言語と共有されたパーパスを用いて：

- ✓ 新たな**ビジネス・投資機会と効率性向上**への道を開く
- ✓ **将来性のある事業**を運営（強靭性）
- ✓ より効果的に**リスクを管理**
- ✓ **評価**を高める
- ✓ 従業員、消費者、取引先、投資家を**惹きつけ、保持**
- ✓ **ステークホルダーとの関係**を強化
- ✓ **イノベーション**を推進
- ✓ 事業が社会の役に立つことで**存在意義**を認められる
- ✓ **政策の進展**と足並みをそろえ、将来の政策に備える
- ✓ 社会と市場の**安定を促す**

「SDGsへの積極的貢献と達成は、企業にとっても世界経済全体にとっても、説得力のある成長戦略となりうる」

ビジネスと持続可能な開発委員会の報告書「より良きビジネス、より良き世界（Better Business, Better World）」より

SDG Impact

UNDP

民間セクターの参画
機関投資家とアセットオーナーにとっての投資上の利点

投資上の利点

- **投資家の長期的な投資アプローチに適合**
- **「ユニバーサルオーナー」**にとって、健全な経済・社会・環境は、リターンの可能性向上、**構造的リスクの低減**などの理由から、財務パフォーマンスの向上に資する
- 人口増加、高齢化、気候変動、資源不足、国内の格差拡大など、世界の傾向が大きく変化する中で、持続可能性とインパクトの視点は、**コストが内在化する前に、新たに出現しつつあるリスクを特定し、管理する**のに役立つ
- **新興国市場の動向**や社会・環境指向の商業投資の機会を先取りして特定し、**先行者利益を得る**

顧客／ステークホルダーとの取引関係上の利点

- 今後数年間で親世代から大きな富の移転を受けることになる**ミレニアル世代**を惹きつけ保持することなどにより、顧客**の期待に応え、顧客に選択肢を提供**
- 投資に関する**女性**との対話の方向性を変える機会を提供し、より有意義な関係を構築することで、投資への参画を促進
- **ミレニアル世代や将来の世代の顧客が退職する頃の将来の社会に積極的に貢献する**

組織の評判に関する利点

- **社会にポジティブな影響を与えたいという組織の価値観に沿っており、またその価値観を示せる**
- **社会の役に立つことで組織の存在意義が認められ、評判を高める**
- 社員に意義深い成長の**機会**を提供することで、才能豊かな**社員を惹きつけ、採用し、保持**する

SDG Impact

UNDP

SDGインパクト基準の概要

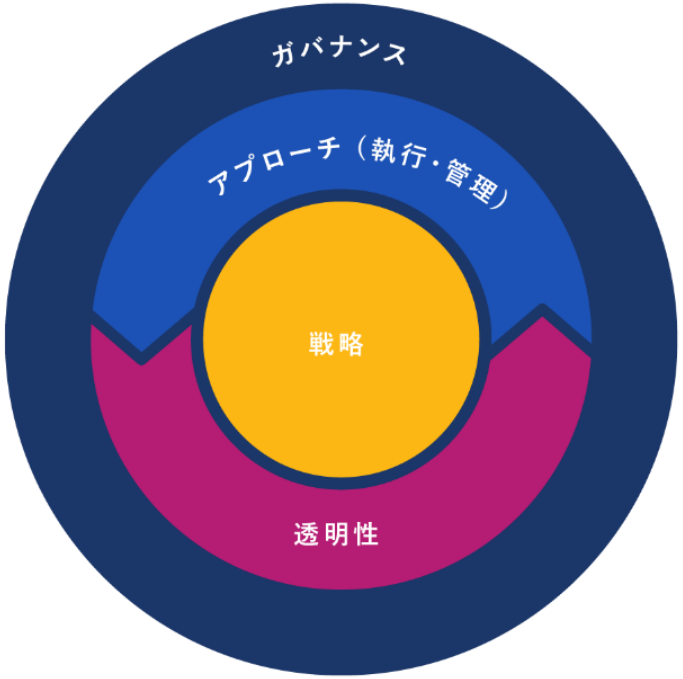
SDGインパクト基準の特徴
企業や投資家が、相互に関連する経済・社会・環境面のインパクトを最適化するための経営判断をサポート

- ✓ 事業を行うための単なる「付け足し」から、全ての事業活動の運営指針の「中核」へ
- ✓ SDGsへの紐付けからSDGsに向けた具体的アクションへ
- ✓ 報告から意思決定へ
- ✓ 測定からマネジメントへ
- ✓ オペレーションから戦略へ
- ✓ 財務リスク管理から持続可能性追求へ
- ✓ 自己中心的な組織・セクターの視点から、環境中心的なシステム全体の視点へ

SDG Impact

UNDP

SDGインパクト基準の特徴
民間セクターのSDGsへの取り組みを、「報告と紐づけ」から「意思決定と具体的行動」へ移行させるための、組織の意思決定の枠組み



SDGインパクト基準の根幹…持続可能な事業運営を行い、SDGsに対し積極的に貢献する

- **プラネタリー・バウンダリー（地球の限界）、人権、責任あるビジネス慣行を尊重**する姿勢がなくては達成不可能
- 効果的な**インパクトマネジメントと意思決定**を通じて実現される

優れた実践と組織内の意思決定が、より良い報告と情報開示へつながる

- SDGインパクト基準は、インパクトマネジメントとSDGsを組織内の実践と意思決定に統合するための青写真を提供
- 既存および新規の様々な枠組みの下での情報開示・報告要件をより効率的かつ効果的に満たせる

SDG Impact

UNDP

SDGインパクト基準は他の既存の取り組みを土台とし、繋ぐピースであり全体像の理解を促進するもの

例：
- 国連ビジネスと人権指導原則
- 国連グローバル・コンパクトの10原則
- 国連女性のエンパワーメント原則
- 国連持続可能な開発目標
- インパクト・マネジメント・プロジェクトの共有規範
- 自然資本連合と社会・人的資本プロトコル
- ソーシャル・バリュー・インターナショナルの基準

例：
- B Lab SDGアクションマネジャー
- UNEP FI レーダーツール
- OECD多国籍企業行動指針
- 持続可能な活動のためのEUタクソノミー
- UNCTAD
- IRIS+システム
- グローバル・レポーティング・イニシアティブ（GRI）

ハイレベル原則

事業や投資活動が、確実に人々と地球に正のインパクトを与えることを担保するためのもの

意思決定フレームワーク

ハイレベル原則に沿うとともに、共通の言語とアプローチを用いて、持続可能な事業運営とSDGsに対する積極的な貢献を意思決定に組み込むためのもの

SDGインパクト基準

債券発行体	企業・事業体	プライベートエクイティファンド

OECD-UNDP
持続可能な開発のための資金供給に関するインパクト基準

開発金融

戦略	アプローチ	透明性	ガバナンス

インパクトマネジメントツール

メトリクス（評価尺度や指標）、タクソノミー、評価モデル、ベンチマーク、その他のツールと枠組み

外部への情報開示

持続可能な事業運営とSDGsに対する積極的な貢献を、どのように意思決定に組み込んでいるかを開示し、外部ステークホルダーに対して事業のパフォーマンスを報告するための枠組み

例：
- インパクト投資の運用原則
- UNEP FIポジティブ・インパクト金融原則および責任銀行原則
- UNGC統合SDG投資・ファイナンスに関するCFO原則
- ソーシャル・バリュー・インターナショナルの社会的価値の7原則
- GIIN インパクト投資の中核的な特徴

例：

持続可能性報告
- 持続可能な開発目標の開示に関する勧告
- グローバル・レポーティング・イニシアティブ（GRI）

企業価値報告
- サステナビリティ会計基準審議会
- 統合報告（IR）フレームワーク
- 気候関連財務情報開示タスクフォース
- IFRS

SDG Impact

UNDP

SDGインパクト基準は、SDGsの旗振り役としてのUNDPの役割を生かし経済システム全体の変化を促進

- SDGインパクト基準を活用してできること-

企業、PEファンド、債券発行体、民間セクターのパートナー

- 持続可能な開発を、事業目的、戦略、意思決定の核に据える
- 持続可能な開発のリスクと機会により良く対処する
- 社内のインパクトマネジメント・システムをマッピングし、設計する
- 自己評価とギャップ分析を実施する
- システム内の他の当事者と協力して、ブレンド・ファイナンスを活用した解決策を構築する

投資家

投資先の期待値設定、投資ガイドラインの作成、疑問点の明確化、社内作業の管理

アナリストおよびアドバイザー

インパクトマネジメントの実践における決定・評価・比較・ガイダンスの提供

政府および政策立案者

発行体や起案者として、また政策や規制を通じて、インパクト基準に沿った活動を実践

SDG Impact

UNDP

SDG Impact

UNDP

企業・事業体向けSDGインパクト基準

企業・事業体基準を適用できる対象者は？

規模、地域、セクターを問わず、持続可能な経営を行い、持続可能な開発と**SDGs**に積極的に貢献することに**熱心に取り組んでいる**<u>**全ての企業・事業体**</u>

- 上場企業
- 公益団体、民間企業、非営利団体
- 非政府組織（NGO）
- 中小企業（SME）
- 国有企業およびその他の公共部門の企業

<u>零細・小規模の企業</u>

本基準を零細・小規模企業の事業に適用することは**比較的容易**であり、コストもそれほどかかりません。

こうした企業の事業構造は**複雑でない**ことが多く、変化に対する**柔軟性**があり、意思決定側とその影響を受ける側の距離が近接しています。また、ステークホルダーや企業自身が事業活動を行っている地域社会と緊密な関係を築いています。

今後、零細・小規模企業向けの**トレーニングガイド**を新たに**発表します。**

企業・事業体向けSDGインパクト基準—実践のための12の行動

1. 戦略
事業に責任を持ち持続可能な形態で運営する。積極的にSDGsに貢献し、最善のインパクトを出す。

2. 戦略
ステークホルダーにとって、そしてSDGsの達成に向けて何が重要か、また自組織が現在どの領域でインパクトを生み出しているかを把握する。そうすることで将来、価値の高いインパクトをどの領域で発揮できるかを見極める。

3. 戦略
インパクトを組織のパーパスと戦略に組み込む。

4. 戦略
一体化したパーパスと戦略に沿って、インパクト目標を設定する。

5. 戦略
最善のインパクトを生み出すため、必要に応じて戦略とインパクト目標を調整する。

6. アプローチ（執行・管理）
組織の文化、構造、能力、システム、インセンティブをパーパスと戦略に合致させる。

7.アプローチ（執行・管理）
インパクトを効果的に測定するための方法、プロセスやシステムを構築し、意思決定に組み入れる。

8.アプローチ（執行・管理）
外部のベンチマーク指標、およびステークホルダーの大グループや小グループの指標に照らして、重要なインパクトを長期的に評価、比較、モニタリングする。インパクト拡大のための選択肢を設定し、どれを採用するか決定する。

9.アプローチ（執行・管理）
改善を続け、インパクトマネジメントのあり方を刷新するためのプロセスを、必要に応じて業務に組み入れる。

10. 透明性
責任あるビジネス慣行、サステナビリティ、SDGsへの積極的な貢献をどのように意思決定とパフォーマンス報告に組み込んでいるかを開示する。

11. ガバナンス
責任ある事業活動とインパクトマネジメントの取り組みをガバナンスの枠組みに組み込む。

12.ガバナンス
組織のガバナンス機構が責任を持って組織運営の模範を示す。

SDG Impact

UNDP

企業・事業体向けSDGインパクト基準—企業等の行動と対応する推奨指標

	戦略	戦略	戦略	戦略
企業等の行動	**1. 事業に責任を持ち持続可能な形態で運営する。積極的にSDGsに貢献し、最善のインパクトを出す。**	**2. ステークホルダーにとって、そしてSDGsの達成に向けて何が重要か、また自組織が現在どの領域でインパクトを生み出しているかを把握する。そうすることで将来、価値の高いインパクトをどの領域で発揮できるかを見極める。**	**3.インパクトを組織のパーパスと戦略に組み込む。**	**4. 一体化したパーパスと戦略に沿って、インパクト目標を設定する。**
対応する推奨指標	責任ある持続可能な事業運営、ならびにSDGsへの積極的な貢献が事業目的の中心であると定める（1.1.1）	グローバル、国、地域におけるSDGsの重要課題やSDGs間のギャップと相互依存性を含め、持続可能な開発状況に対する理解を深める（1.1.4、1.1.2） ステークホルダーを特定し、巻き込むことにより、ステークホルダーにとって何が重要かを把握する（1.1.5） バリューチェーン全体の様々なステークホルダー（軽視されがちなグループを含む）に対する現在および将来の潜在的インパクトを示し、ステークホルダーにとっての重要項目に基づいて重大なインパクトを特定する（1.1.6）	持続可能性、およびSDGsへの積極的な貢献を実施可能なステップと事業戦略につなげるため、インパクト目標達成のための戦略を構築する（1.1.1） 人権、プラネタリー・バウンダリー、その他の責任あるビジネス慣行への尊重姿勢をアプローチに組み込む（1.1.3） ビジネスモデルとパートナーシップ・アプローチを評価する（1.1.7） 戦略とインパクト目標を事業計画に統合し、十分な予算とリソースを配分して、戦略計画およびインパクト目標を達成する（1.1.10）	すべての重大なインパクト（ネガティブなものも含む）や分野横断的な課題に対し、目標を迅速に達成するために求められるベースライン、最低限の基準値、変動率など意欲的で測定可能な目標を設定する（1.2.1、1.2.2、1.2.3、1.2.5） SDGのアウトカム領域とABCインパクト分類に基づいて、目標を具体的に示す（1.2.4） インパクトが予想通りに発生しないリスク（ステークホルダーに対するものも含む）を評価する（1.1.8、1.1.9）

SDG Impact

UNDP

企業・事業体向けSDGインパクト基準—企業等の行動と対応する推奨指標（続き）

	戦略	アプローチ（執行・　管理）	アプローチ（執行・　管理）	アプローチ（執行・　管理）
企業等の行動	**5.最善のインパクトを生み出すため、必要に応じて戦略とインパクト目標を調整する。**	**6.組織の文化、構造、能力、システム、インセンティブをパーパスと戦略に合致させる。**	**7.インパクトを効果的に測定するための方法、プロセスやシステムを構築し、意思決定に組み入れる。**	**8.外部のベンチマーク指標、およびステークホルダーの大グループや小グループの指標に照らして、重要なインパクトを長期的に評価、比較、モニタリングする。インパクト拡大のための選択肢を設定し、どれを採用するか決定する。**
対応する推奨指標	組織内外の状況の変化、実際のインパクトに関する情報が明らかになるのに伴い、戦略とインパクト目標の見直しや調整を行う（1.1.11）	人権、プラネタリー・バウンダリー、その他の責任あるビジネス慣行を尊重する姿勢を方針や手順に組み入れる（2.1.1、2.1.2） 意思決定へのステークホルダーの関与、政府機関との連携、同業他社やパートナーになりうる組織との協働を通じた合同解決策の模索などにおいて、アウトサイドインの手法を構築する（2.1.3、2.1.4） 能力開発を進め、説明責任を組み入れ、インセンティブを目的と戦略に合致させる（2.1.5）	意思決定に役立つ測定基準を特定するアプローチを構築し、インパクトデータを適切に収集、検証、管理、使用する（2.1.6、2.3.2） インパクトを評価、モニタリング、管理する方法を策定する（2.2.1、2.2.2、2.2.3、2.3.1、2.3.3、2.3.4） 意思決定に必要な情報量を決定する（2.2.4） インパクトリスクを管理するために、第三者によるインパクト評価が必要な時期を決定する（2.2.6） インパクト情報がビジネスの意思決定、進行中のインパクトマネジメント業務および継続的な改善につながるように、結果と学んだ知見を把握する（2.2.7、2.3.5）	7で構築した手法に基づき、重大なインパクトを評価、比較する（2.1.6、2.2.1、2.2.2、2.2.3、2.2.4、2.2.6） インパクトとSDGsへの積極的な貢献を最適化するための選択肢を選ぶ（2.2.5） 予想されるインパクト、ベースライン、反事実、最低限の基準値に対する実際のインパクト・パフォーマンスをモニタリングし、インパクトとSDGsへの貢献を最適化するために行動する（2.3.1、2.3.2、2.3.4） 予想アウトカムからの乖離を分析し、対処する（2.3.3）

企業・事業体向けSDGインパクト基準—企業等の行動と対応する推奨指標（続き）

	アプローチ（執行・ 管理）	透明性	ガバナンス	ガバナンス
企業等の行動	**9.改善を続け、インパクトマネジメントのあり方を刷新するためのプロセスを、必要に応じて業務に組み入れる。**	**10.責任あるビジネス慣行、サステナビリティ、SDGsへの積極的な貢献をどのように意思決定とパフォーマンス報告に組み込んでいるかを開示する。**	**11. 責任ある事業活動とインパクトマネジメントの取り組みをガバナンスの枠組みに組み込む。**	**12.組織のガバナンス機構が責任を持って組織運営の模範を示す。**
対応する推奨指標	インパクト結果、知見、持続可能な開発状況の変化を念頭に置き、長期的にインパクトマネジメントの実践を精緻化する（2.1.7、2.3.5）	SDGs情報開示勧告、ステークホルダーのニーズ、関連法規に従って開示・報告をする（3.1、3.3、3.5） インパクト・パフォーマンスを一貫した方法で状況に応じて発信する（3.2） 人権や、責任あるビジネス慣行に関するその他の方針を開示する（3.4） インパクトおよび持続可能性に関する報告書の保証を受け、推奨項目を実行する（3.6）	組織のガバナンス機構は持続可能性とSDGsへの積極的な貢献が企業のパーパス、戦略、リスクマネジメント、意思決定の実践、責任あるビジネスおよびインパクトマネジメントの実践、パフォーマンスに組み込まれているかを監督する（4.1） 企業の親会社および持ち株会社、あるいはそのいずれかは本基準が示す要件に則り、ガバナンスと責任あるビジネス慣行に関する方針、実践、パフォーマンスを保持する（4.3）	組織のガバナンス機構は、持続可能な開発にふさわしい能力を有する多様な人材で構成されており、透明性のある事業運営を行い、影響を受けるステークホルダーに代わって行動することの重要性を認識している（4.2） 組織のガバナンス機構は、経営陣に対し、責任あるビジネスとインパクトマネジメントの実践（企業のバリュー、目的、方針に沿う）およびパフォーマンスに関する責任を責任を負わせる（4.2）

SDG Impact

UNDP

SDG Impact

UNDP

SDGインパクト基準の活用方法

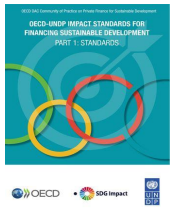
SDGインパクト基準と認証

SDGインパクト基準

SDGインパクト基準について

SDGインパクト基準用語集

SDGインパクト基準



SDGインパクト基準ガイダンス

- 一貫した適用を促進するための基準ガイダンス
- 参照フレームワークとその他のリソース
- 自己評価ツール

アセットオーナー／アロケーター向けガイドライン（GISD）

認証

認証フレームワーク

- ガバナンス
- 認証提供者の認定と研修
- SDGインパクト認証の運営

認証プロトコル

- SDGインパクト基準で設定された水準（ただし、それより低い水準）に基づく最低限の基準値
- 継続的な改善への取り組み、SDGインパクト基準に沿った良い実践に向けての前進

ワークフローツール

- ユーザーと認証提供者が、エビデンス要件と最低限の基準値に照らして、取り組みを整理し文書化するためのワークブック

認証提供者リソース

- エンゲージメントレターのテンプレート
- 認証意見書・報告書のテンプレート
- マネジメントレターのテンプレート

教育と研修

SDGインパクト測定／マネジメント無料オンラインCourseraコース（デューク大学）

SDGインパクト基準に関するユーザー研修

認証提供者研修

SDG Impact

UNDP

「SDGs達成に向けたインパクト測定および：マネジメント」（オンライン講座）

SDGs達成につながるインパクト創出に向けて前進するには、インパクトの測定とマネジメントをビジネスや投資の全領域に組み込むことが重要です。

（コース修了者の声）

UNDP SDG Impact DUKE FUQUA SCHOOL OF BUSINESS CASE coursera

SDGインパクト基準の適用から、第三者機関による認証へ

自主的な任意使用

- 本基準は、ベストプラクティスの指針として使用できるよう設計
- ギャップ分析ならびに自己評価ツールとしても使用可能
- ギャップ（理想と現実の差異）を埋めて、実践のあり方を徐々に改善する指針にも

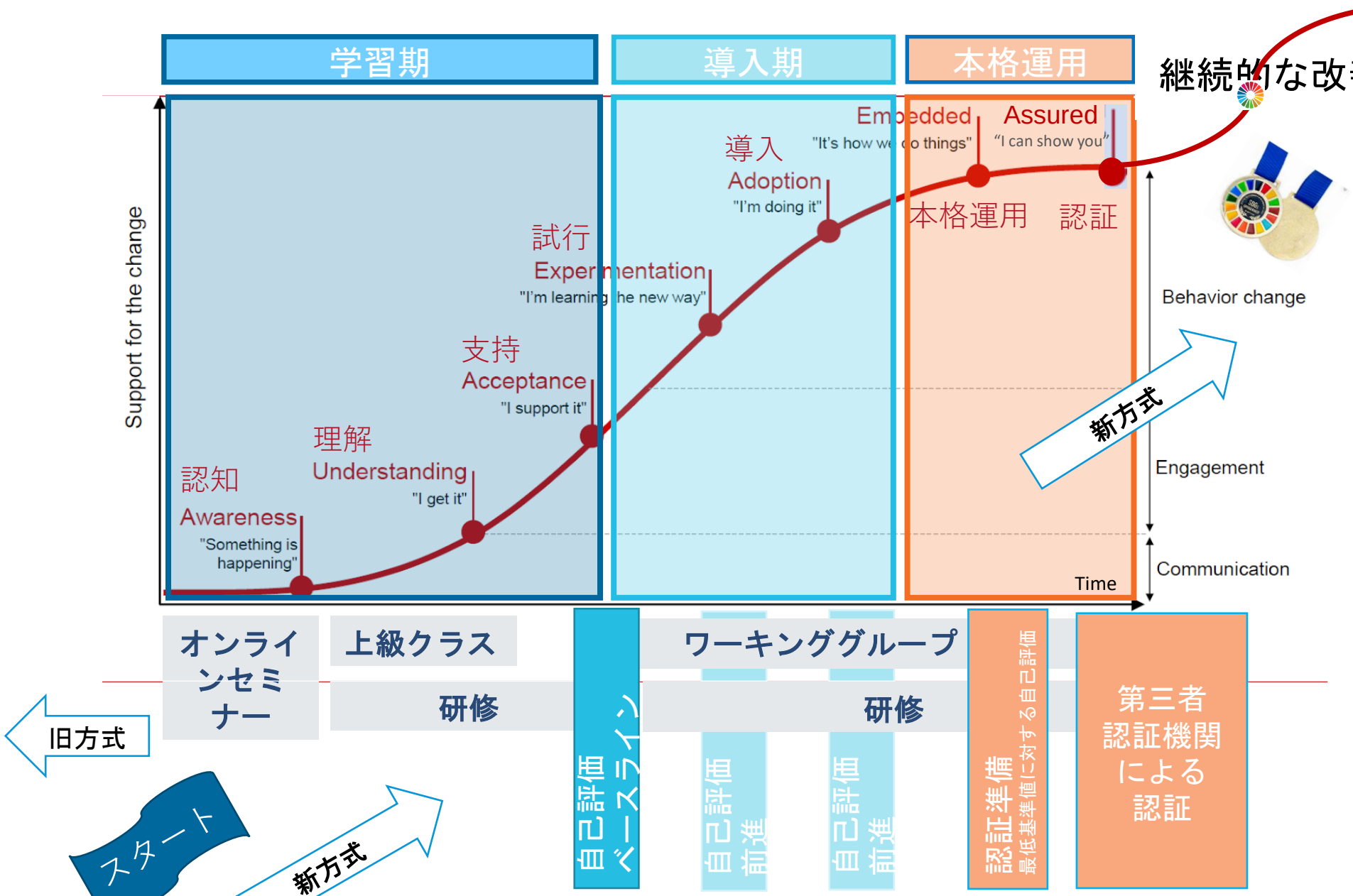
自主的な認証フレームワーク

- 外部機関による認証フレームワークとSDGインパクト認証ラベルを開発中
- 第三者認証機関による認証を想定
- 2022年以降に試験運用を開始予定

SDG Impact

UNDP

SDGインパクト認証への道のり：インパクトへの3段階のステップ



対象者

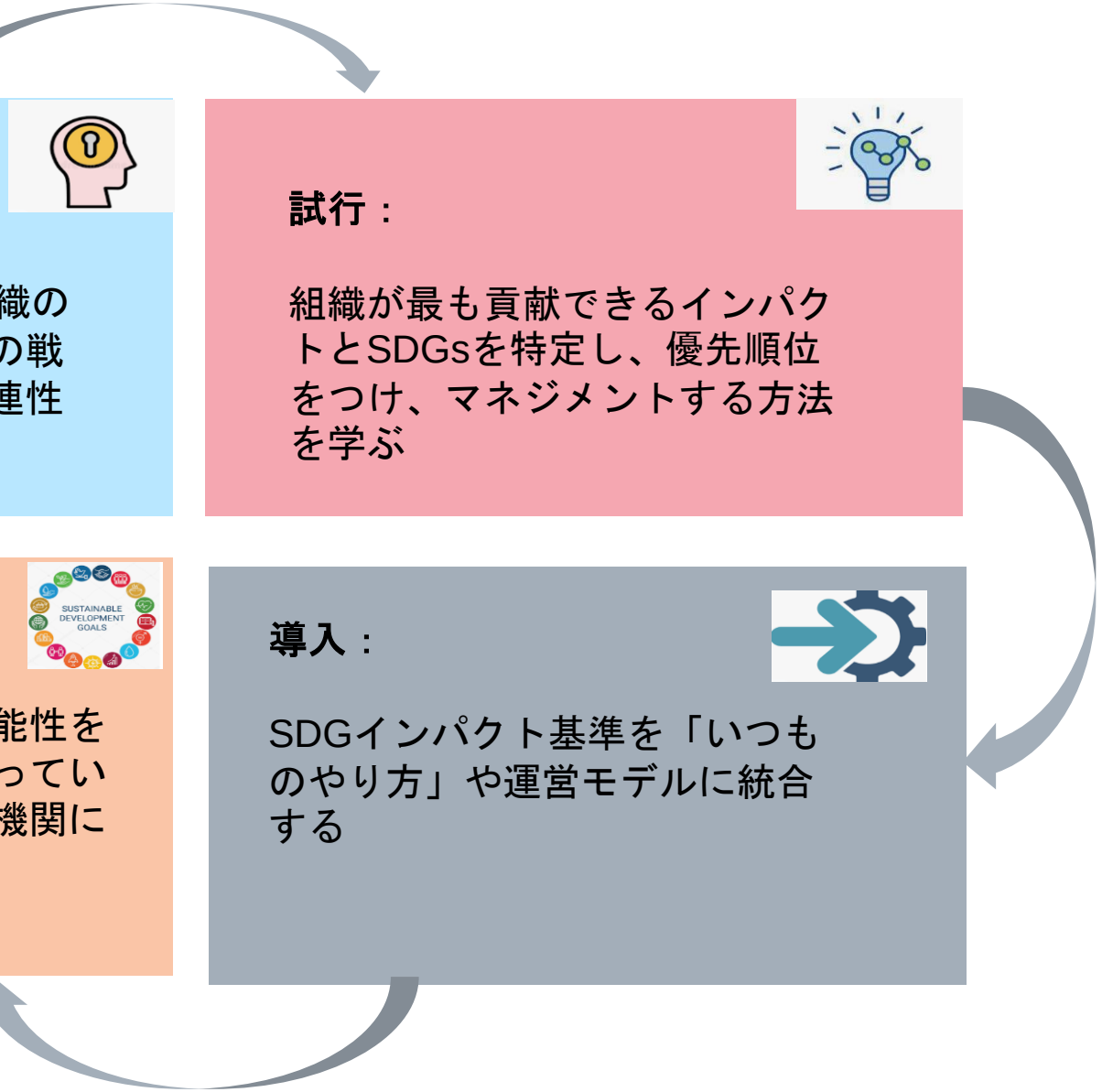
企業・事業体
PE/VCファンド
債券発行体
アセットオーナー

SDG Impact

UNDP

Source: Adapted from Bain & Company; "Six Key Change Communications Takeaways from Jessica Snow-Wasserman"

SDGインパクト基準の実践のために企業や投資家の経るプロセス



SDG Impact

UNDP

ありがとうございました

英語ウェブサイト: sdgimpact.undp.org
日本語ウェブサイト：jp.undp.org
英語ツイッター: @sdgimpact

SDG Impact